第５回　ＰＯＷ研究会　オンライン講演会
「“世界平和”のために建てられたモニュメント」

講師：Ｇ　モートンさん、Ｄ　ミルンさん
2021 年5月 29 日（土）18:00~21:00

記録：稲塚由美子

第一部：徳島にある「子供平和記念塔」について

発表者： David Moreton（デビッド・モートン）

徳島市中央公園内に、世界平和のために建てられた子供平和記念塔はある。小石が積みあがった礎石と台座の上にブロンズの小便小僧と 2 羽のハト像が載っている。日英両言語で「子どもはいつも平和を愛します…」との碑文がある。地元の彫刻家太田三郎作、昭和 23 年（1947 年）11 月 3 日設置。

第二次世界大戦後、日本は国内外に多数の平和祈願のモニュメントを建てた。戦後の混乱期にモニュメントを製作する際、もっとも大きな問題は建設資金をどのように調達するかであった。ある県では、記念碑の「規模」を競い合うようなこともあったようだ。中には京都・東山の霊山観音のように、一人の実業家が全額を出資したものもある。また、東京・港区の芝公園にある「こども平和塔」は、建設するために地元のみならず、全国の子供たちが募金活動を行ったという例もある。

徳島中央公園にある「子供平和記念塔」は、戦後のモニュメントとしては極めて珍しい例である。戦後徳島に駐留していた数名の米軍兵が支援と協力を申し出て、国内の子供たちだけでなく世界中の子供たちに声をかけ、モニュメントを作るための石を集めたのである。このような国際的な協力体制は、他のモニュメントの建立に見られない。

徳島市は、1945 年 7 月 4 日に徳島大空襲があり、1 万 4 千発もの焼夷弾を市中心部に投下されて市内の 3 分の 2 が壊滅、約千人の市民が犠牲になった。徳島の「子供平和記念塔」の呼びかけ人「平岡国市」は、こども民生委員を創始した[9]。その深い動機となったのは、自身が戦争で家族を亡くしたこと、そして昭和 21 年（1946 年）、徳島駅前や闇市での浮浪児の姿を目の当たりにしたことだった。徳島県民生委員だった平岡さんは、子供たちが主体となって地域課題と取り組んでいけば、やがて平和と福祉の心が子どもたちに根付くと考えた。大人の民生委員の支援で町内会単位に子供民生会の組織を提案。あわせて学校教員の理解と協力のもと、徳島県内すべての小中学校で子供民生委員制度を設立した。全県運動の子供民生活動の大きな実践として「子供平和記念塔」は創られた。県内 17 万人の子どもたちが集めた 38 万円と、礎石に使う小石を全国だけでなく全世界からを送ってもらったが、実際には世界からはアメリカ全州から送られた石のみである。平成天皇が皇太子時代に寄せた那智の黒石も使われている。

---

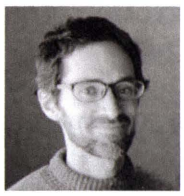
[9] 「社会事業」34（12）、1951、平岡国市『明日への明るい希望子供民生委員の過去・現在・未来』）参照

なお、子供民生委員活動は、昭和 35 年以降の受験戦争の激化と共に、昭和 40 年代に次々に消滅し、「子供平和記念塔」も傷むがままにされた。徳島では、2000 年に入ってから、志を継承した「藍・あい・愛運動」が推進され、それと歩調を合わせるかのように、傷んだ「子供平和記念塔」は、1995 年に復元され、2005 年にシンポジウムが開かれ、2011 年と 2015 年に徳島新聞に取り上げられた。

この小さなモニュメントは、戦後わずか 3 年で完成し、とりわけ子ども民生委員という子どもの力が大きかった点において珍しい。ただし、大人の平岡国市の努力と徳島の進駐軍やアメリカの赤十字少年団などの協力なしでは完成しえなかった。その意味で、お互いの協力、国際友好、世界平和の重要なシンボルであることは間違いない。＊

第二部：　謎に満ちた、京都「霊山観音」について

発表者：　Daniel Milne（ダニエル・ミルン）



私の霊山感音の研究は 2018 年から「観光と戦争」をテーマにした授業で学生を霊山観音に連れていったことがきっかけだった。そこでモートン先生を紹介していただいて、昨年からは先生と霊山観音について共同研究を行っている。

＊P 研会報 20 号（2018 年 6 月号）モートンさん著「霊山観音―世界平和のために建てられた寺院」参照

京都、八坂神社と高台寺の中間に位置する「霊山観音」は、帝産オート（株）社長の石川博資（いしかわ・ひろすけ 1891–1965）が、1955 年、国家のために犠牲になった日本人のためにと創建した。しかし、これは最初の石川が建てた公共のメニュメントではなかった。石川は 1940 年に国家のために自己を犠牲にするというシンボルとなった皇居のすぐ外の和気清麻呂像を建てた人でもある。

日本人戦没者 300 万人のノンセクト（無宗派）仏教式慰霊施設として、高台寺の借地に建てられた。

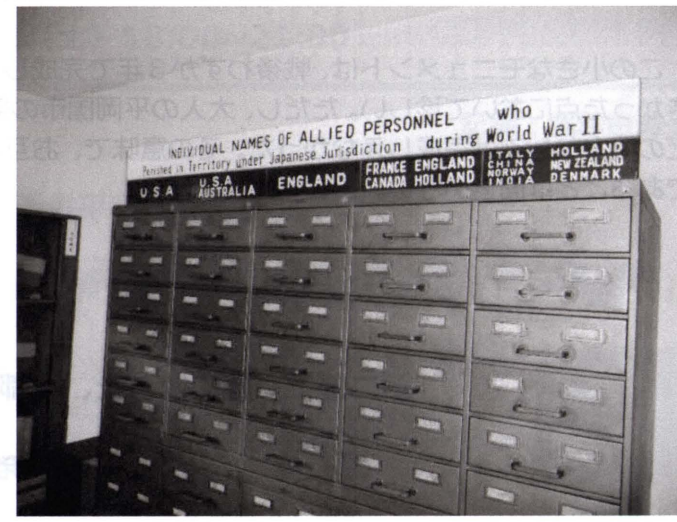
その後、味方も敵も、祖国のために戦った人たちを慰霊するのだとして、連合国軍の兵士のための慰霊施設ともなっていく。1958 年、太平洋戦争中に日本軍管理下で亡くなった連合軍捕虜の慰霊碑「世界無名戦士の碑」を設置した。さらに、1959 年、観音像の右後方に、捕虜 4 万 8 千人の死亡者・行方不明者名簿や世界無名戦士の碑を展示する記念館「メモリアルホール」を建て、世界無名戦士の碑が移された。

この時点で、戦死した日本人だけでなく、外国人も慰霊に含まれているという点では、日本では珍しい慰霊施設だった。だが、メモリアルホールでは韓国など朝鮮出身者、中国、台湾などアジアの犠牲者はほとんどなく、西側諸国の戦死者、および捕虜収容所内死亡者など、西側諸国のみ慰霊されている。これは、冷戦時代の日米同盟の国の兵士の慰霊であり、「日米同盟を批判しないようにしている」平和の場所だといえる。

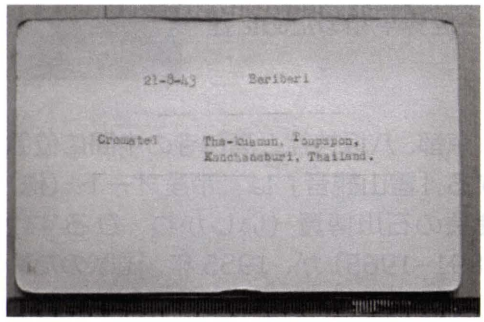
霊山観音は現在、日本人戦没者や連合軍の捕虜、世界各地の戦死者の慰霊を目的とした施設としては対

外的な宣伝を積極的に行っていない。

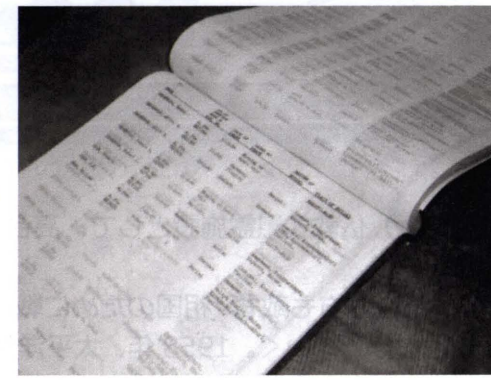
（銘々票）2018 年の POW 研究会報（20 号）に掲載されたモートン先生の報告からの追加情報
収納キャビネット



収納キャビネットの上の説明には、「第二次世界大戦中に日本の支配下で死亡した連合軍兵士の氏名」と書かれており、イギリス、アメリカ、オーストラリア、フランス、カナダ、オランダ、イタリア、中国、ノルウェー、インド(パキスタンを含む)ニュージーランド、デンマークの国名が記載されている。キャビネットの引き出しは個人の情報が書かれた 77 ミリ×125 ミリの大きさのカードに個人情報（氏名、生年月日、死亡場所）が両面に記載されている。カードはアルファベット順に整理され、ぎっしりと納められている。モートンさんの調査では、キャビネットはおそらく 1959 年(昭和 34 年)製造のものではないかと推察された。しかし、これがどのような経路で霊山観音に納入されたのかはいまだに謎のままである。



また、収納キャビネット設置場所奥のガラスのキャビネットの上の説明版には、「世界中の軍事墓地から集められた土と砂」と書かれている。キャビネットの中には 23 か国から送られた 24 本（アメリカから 2 本展示しているのをアルファベット順では、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ビルマ、カンボジア、カナダ、セイロン（スリランカ）、中華民国（台湾）、エチオピア、フィンランド、ドイツ、ハワイ、インド、イラン、イスラエル、イタリア、ラオス（ラオス王国）、オランダ、パキスタン、フィリピン、タイ、トルコ、アメリカ（アーリントン）、ベトナム（ベトナム共和国、南ベトナム）。



死亡者名簿は、原本は戦時中に日本軍の捕虜になり、収容所などで死亡した米、英など連合国側の兵士ら約４万８千人の名簿が保管されている。ただし、モートンさんに遺された祖父の従軍日記から、タイ、カンチャナブリにある『泰緬鉄道博物館』（当時）の館長、ロッド・ビューティに出会い、彼から霊山観音に、連合軍の捕虜たちの記録があることを聞き、メモリアル・ホールに収めてある「死亡者名簿」を見ることができた。しかし、これはモートンさんが実際に連合軍に従軍した兵士の孫であるからだと推察できる。日本人は今も見ることができない。
＊経緯の詳細に関しては、文末の Q&A 参照。

高台寺の借地である敷地は、まず最初の契約から 50 年目（2005 年）に借地契約更改で、あと 25 年 2030 年に契約更改するのかしないのか微妙である。土地借地問題が絡み、霊山観音は存続できるのか。また、かつては修学旅行、観光客等で賑わったものの、70 年代ごろ以降、慰霊する遺族の減少もあり、訪れる人も少ない。

◆ 質疑応答 ◆

笹本：「子供平和記念塔」の建立式に参加した子どもたちのその後は？

モートン：直接聞いたことはない。建立式で子供代表で祝辞を読んだ山本さんは 1986 年の四国放送や徳島新聞で取り上げられたり、2005 年の名古屋のシンポジュウムに参加していると新聞にでていた。

笹本：霊山観音の名簿のリストやカードの入手先は？

モートン：わからない。永遠のミステリー。

高田：石川は GHQ 関係の仕事をしていたはず。その伝手で政府を動かし入手したのではないか。

西里：俘虜情報局が赤十字へ提供したものでは？原本はジュネーブにあるのでは？

モートン：以前坂口晴海さんに調べてもらったが、そのようなことは出てこなかった。政府が赤十字に提供したものでもない。霊山観音のリストは非公式で表立っていない。私がその存在を知ったのはカンチャナブリの泰緬鉄道の博物館のロッド・ビーティに頼まれて、リストが霊山観音にあるから見て教えて欲しいと。

笹本：モートンさんが見せてもらうまで、日本人が頼んでも見せてもらえなかった。モートンさんは祖父が捕虜だったので、見せてもらえたのかも。

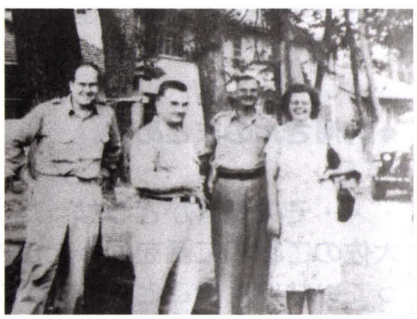
西里：モートンさんは扉を開いたと思う。

高田：モートンさんは外務省の招聘事業の時、元捕虜や遺族をここへ案内したが、外務省の方から寺に連絡が行って案内したのか。

モートン：私のつながりで霊山観音の僧侶心山（むねやま）さんに頼んで開けてもらっていた。観音像を建てた石川博資には 3 人の孫がいるが捕虜のリストと聞いて保存は微妙だ。石川の 3 人の孫は高校はアメリカのコロラドで学んでいる。帝産の田中氏が 3 人の面倒を見た。ものすごいお金持ちだったが、バブル崩壊で財産を失った。

リケット：子ども民生委員の平岡国市は「子供平和記念塔」を進められたその勢いに驚いて感動しました。彼の背景についてもう少し説明してもらえませんか。つまり彼の深い動機はどこから湧いたのでしょうか。それは戦後の状況と子ども民生委員の活動だけだったのでしょうか。それとも戦争体験からも来たのでしょうか

モートン：戦争体験までわからない。家族が病気で亡くなったりした。社会を良くしたい、そのために子どもたちに何かしてもらいたい、という気持ちではないか。



リケット：「平和の塔と」、「子ども平和の塔」とのつながりはどうか？

モートン：東京、徳島以外の塔は関係ない。当時、四国の軍政部にいたカルメン・ジョンソンは 1996 年に自伝を書いている。彼女は女性の権利の担当だった。アメリカの軍政下で塔の建設に軍の協力あった。

リケット：カルメン・ジョンソンが写っているこの集合写真は貴重。

田村（佳子）：大阪や神戸にも平和記念塔の計画があったというが、その後は？

モートン：実現していない。

ミルン：グアムは中止していた時期もあったが 1970 年代にできた。広島にも建てる計画だった。1950 年代にはそのような計画が盛り上がったのではないか。

田村（佳子）：霊山観音の映像は美しいがミルンさんが撮影したのか？

ミルン：京都の観光会社＜京都の在り方＞の PR 動画。霊山観音がドローンで上空から撮影されたのは初めて。＊https://www.kyoto-arikata.com/tamayura/ryozen-kwannon/

西里：霊山観音の後ろの建物に日本の戦友会の名簿がある。戦友会の資料もある。

ミルン：それは、護国神社のことではないか？

西里：外務省招聘の元捕虜の遺族たちと何度か霊山観音へ行ったが、ヘルシップ（捕虜輸送船）で海没した船の犠牲になった娘が名簿を見て涙する場面を見た。名簿は保存する価値があると思うが。

福永：霊山観音の後ろの方は護国神社の近くで戦友会の名称もこれと関係があるのではないか。

笹本：遺族や外国人が保存して欲しいと提言するなら聞くかもしれない。

モートン：土地所有者の高台寺との契約期限が 2025 年で切れる。土地が高台寺に戻された時どうなる

か。

ミルン：そのままでは維持するのは難しいと思う。やがて無くなるのでは。アメリカ人捕虜の招聘ツアーも終わり、外からのプレッシャーも少なくなるだろう。ぼくらが頑張るしかないのか。

西里：もっと観光客からお金をとればいい。

原田：2014 年に招聘されたチャールズ・エドワードさんの外務省係員として霊山観音に行った。京都に観光に来た人は何百年以上の古いお寺に価値があるので新しい観音像や戦争慰霊碑は観光的に魅力がないのでは？

高田：何年か前に靖国神社に行った時、中国人の若い人達が南京事件の展示のところでこの死亡者の数字はおかしいと大きな声で言っていた。学校の歴史教育で戦時中の捕虜のことなど教えられていないと関心が無くなる。

小宮：霊山観音にはずっと違和感を持っていた。ミルンさんの「冷戦時代の日米同盟のオマージュしかも朝鮮戦争を隠蔽し、日米同盟を批判しないようにしている。石川は霊山観音を平和を願うために建てたのではなく、アメリカとの和解と同盟を進め、日本をアジアの資本主義国のリーダーにすることを願ったもの」という分析に目からウロコが落ちた。あの場所に霊山観音は似合わない。

ミルン：石川は時代に合わせてうまく動いた人だと思う。すごい人で、うまく言い表すのは難しいが、悪い人ではないと思う。

笹本：捕虜名簿とカードだけどこかに移せないか。

高田：寺や神社に慰霊するという伝統がある国で資料だけ移すのは難しいのでは。京都の平和学習の場としてはどうなのか。

西里：京都では昭和に建てられたものは観光の対象にならない。残すべきものはメモリアルルームの捕虜カードと名簿だと思う。高台寺に土地を返す時、あの名簿を立命館の平和ミュージアムに移すのがいい。

モートン：数年前に宣伝担当が入り、入場料の値上げをしたりした。

ミルン：霊山観音は無宗派だ。1960 年代の修学旅行では新しいということもあり人気があった。今は観音様の顔を見ようと宣伝している。1937 年に建てられた高崎観音は、大きい観音像の始まり。霊山観音はその次だ。その後、あちこちの県に建てられたが、今では入るのも危ない建物になっている。

内海：芝公園の「子供平和記念塔」は家のすぐ近くだったのでよく見ていた。ビキニ水爆実験の頃、運動が盛り上がり、教師たちが熱意をもって反戦平和を語っていた。

奥田：修学旅行で霊山観音に行った。京都出身の師団が多くあり（第 116 師団、第 16 師団、第 62 師団）その慰霊のために建てられたのでは。

◆内海さんのまとめ◆

・・・その資料がどうなったか、と言うことですが、かつて俘虜情報局で働いていた小田島董元大佐のご家族に話を伺ったことがありますが、資料は全部、役所に置いてきた。家にはもって帰っていないとのことでした。情報局が統廃合された時、かつての部署の書類をどう保管するのか、あるいは廃棄してしまうのか、国立公文書館や外交史料館などへの移管も考えられますので、俘虜情報局の閉鎖と関連資料の行方は、調べてみる必要はあると思います。

刑死した人の遺書もトラック一台分あったそうです。塩尻公明編『祖国への遺書　戦犯死刑囚の手記』が 1952 年 11 月に毎日新聞社から刊行されていますが、その「前書き」には「トラック一台分に相当する程の膨大な遺書群の中から、毎日新聞出版局の人々が克明に検討して次々に原稿用紙に清書し、相当量の印刷物をつくり、これを更に自分が注意深く検討して、ここに収めた分量だけ残した」とありました。「すぐれた」遺書は活字化されましたが、残った大量の遺書群はどうなったのか、毎日新聞の出版局に問い合わせましたが保管されていませんでした。

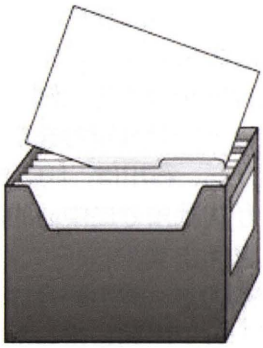
その後、1953 年 12 月に　巣鴨遺書編纂会編『世紀の遺書』が自費出版されていますが、そこに掲載されたのか、廃棄されたのかははっきりしていません。一つのヒントは、古書店などが引き取った可能性はあります。児童読み物作家の山中恒さんは、遺書を買っています。古書店で売

りに出ていたというのです。こうしたことを考えると大量のカードや名簿、書類など、閉鎖機関の資料の行方は、調べてみる必要があると思います。

笹本：それに関してすごく重要な、これはモートンさんが調べたんですけど、あのカードを入れてるキャビネットが俘虜情報局にあったキャビネットと全く同じなんですよ。だからそのままそのキャビネットが行ったと言うことも考えられますよね。私はたまたま同じものを同じ会社で作ったのかと思ったんですけど、今の話を聞いてみるともしかしてその情報局のキャビネットがそれごと行っちゃたんじゃないかと、今思ったんですけど。
（後日記：その後、霊山観音のキャビネットと俘虜情報局のキャビネットの写真を見比べてみたところ、形が違うことが判明した）

高田：そんな大事なもの。そんなことやりますか？

内海：大事だというのは、私たちの価値判断ですから、組織の中では自分たちの管轄外の資料などは処分することは十分、考えられます。誰か個人が保管しない限りはーー。かつて、オランダ公文書館で、メモまで保管されているので、感動したことがあります。資料の保存は、もちろん規則が基本ですが、担当者の価値判断などいろいろな要因が重なっています。福岡俘虜収容所本所副官だった渡嘉敷さんは、焼却命令には指揮命令系統が違うからと応じなかった。米軍の接収には、前日、九大の学生を動員してタイプ打ちして、コピーをとったと話していました。
　捕虜の問題については、これまで関心をもって調査し、資料を収集しようとした人は少なかったこともあります。2004 年に有事関連 7 法案の一つ「捕虜法」（武力攻撃事態における捕虜等の取扱に関する法案）が成立しました。何よりも海外で、そして日本で資料が公開され始めたことから、研究や調査が進んできたので、日本政府が持っていた、また、持っているであろう、こうした資料への関心も高まったと思います。俘虜情報局、その関連の資料が一体どうなっているのか、それは私たちが調査し、手分けして、今日のようにいろいろなヒントを突き合せていけばまた、何かが見えてくると思います。
　こう話していながら、元国会議員の藤田幸久氏に　当時の厚生省の捕虜関係資料について問い合わせてもらったことを想い出しました。また、議員から質問主意書などを出してもらうなどしてできる調査をやっていきたいと思います。



- 後日ミルンさんから追加資料が送られてきましたので掲載致します

石川と和気清麻呂

- 実は、霊山観音は最初の石川が建てた公共のメニュメントではありません。
- 1939 年、石川は北米に渡り、採掘効率を上げるための技術を学ぶと同時に、戦時中の規制で日本では調達できなかった銅を手に入れました。
- 石川はこの銅を使って、和気清麻呂の銅像を作りました。これは、石川を含む政界、実業界、軍事産業界の有力者で構成された「大日本護王界」が 1930 年から計画していたもので、銀座にある帝産の事務所で運営されていました。
- 麻呂は僧侶であり有力な政治家である道鏡が次の天皇にならないよう、皇統が切れないように、命をかけて守ったことで当時は高く評価されていました。この像は、天皇に忠誠を誓ったもう一人の人物、楠木正成の有名な騎馬像とともに、東京の皇居を「守る」ために配置されました。
- 戦時中、麻呂の忠誠心と自己犠牲の精神を称える儀式がこの像で行われました。
- 戦時中に、多くの銅像は徴発されたが、清麻呂と楠は今もほとんど当時のままです。戦時中と戦後に大きなモニュメントを作り、その両方とも残っているのはおそらく石川しかいないでしょう。国家のために自己を犠牲にするというイデオロギーの耐久性を証明し、霊山観音のイデオロギーを理解するための鍵でもあるかもしれません。

霊山観音の設立

- 石川が観音像を建てる場所を決めるのに 1951 年から 1953 年までの 2 年間、その後 2 年間の工事が行われた。1955 年 6 月にオープンした「霊山観音」には、全国から 2 万人もの遺族が訪れました。
- 石川は、周囲の慰霊施設やその歴史を生かすために、慎重に場所を選びました。
- 山の斜面に建てられた霊山観音は、かつての都と京都の市民を守るかのように配置されています。清麻呂像が皇居を守る位置にあることと似ています。また、隣の山の頂上には、将軍塚があります。将軍塚は清麻呂が桓武天皇（735～806）を京都に遷都させるために連れて行ったとされており、清麻呂と深い縁の場所です。
- これは、霊山観音は、天皇や皇統の守護と自己犠牲を象徴するメモリアルを石川が戦後も継続して建設したことを意味していると思います。

靖国神社と霊山観音

- 霊山観音から 50 メートルも離れていないところに京都の護国神社があります。護国神社は、おそらく京都で最も重要な近代以降の戦没者追悼施設です。
- 護国神社は 1930 年代まで、京都招魂社で、近くの墓地に眠っている、幕末や戊辰戦争で徳川軍に対して帝国主義者として戦って亡くなった人々を祀るために 1860 年代終わりに建てられたものです。この招魂社は靖国神社のモデルとなりました。
- 日本が占領されていた間、靖国は批判され、国はサポートができなくなりました。そしてその後の 1950 年代半ば、末ごろまでに、靖国は大人数の戦没者の招魂祭ができなかったので、石川のように戦争遺族に同様のサービスを提供する者にとっては、チャンスでした。
- 帝産の設立４０年記念の本などでは、石川は霊山観音についてこう述べたと書いてあります：「靖国神社をつくる、護国神社をつくるというわけじゃないからアメリカの反対もないだろう」や「おれは一つアメリカをだまして、第二の靖国神社をつくってやる」などです。
- だから、石川は、「国家のために犠牲になった兵士に敬意を払い、慰霊するべきだ」という靖国神社が終戦までに中心的な施設となっていたイデオロギーやその役割を維持し、継承したかっただと言えます。
- ですので、霊山観音は「世界平和」のためにできたものではなく、日本人戦没者の慰霊や記憶の場として出発しました。

メモリアルホール

- 1958/9 年にできた世界無名戦士の碑、連合軍の捕虜記録がアクセスできるメモリアルホールは霊山観音の慰霊・追悼（ついとう）・記憶の役割を日本帝国側の人々から広げて、国際的なものにするものとして、貴重な場所だと思います。
- 「世界無名戦士の碑」には「味方も敵もおのが祖国のために倒れた勇士」や「熱意をもって平和の探究（たんきゅう）に精進（しょうじん）しよう」と書いてあり、敵と自分の兵士を記念するということ、あるいは戦時中でも戦後でも日本でも連合諸国でも無視され、見下されてくた捕虜を記念するということは非常に意味があると思います。
- メモリアルホールにはもう一つの国際的なディスプレー、メモリアルがあります。
- 捕虜カードの収納キャビネットの横には「世界中の軍人墓地から集められた土と砂」と書かれたサインがのっているガラスのキャビネットがあります。この中には
国別でラベルされていて、国旗（こっき）がついた 24 本の瓶が展示されています。
- 展示しているのをアルファベット順では、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ビルマ、カンボジア、カナダ、セイロン（スリランカ）、中華民国（台湾）、エチオピア、フィンランド、ドイツ、ハワイ、インド、イラン、イスラエル、イタリア、ラオス（ラオス王国）、オランダ、パキスタン、フィリピン、タイ、トルコ、アメリカ（アーリントン）、ベトナム（ベトナム共和国、南ベトナム）。
- これらは 50 年代末や 60 年代に得たものだそうです。1960 年代前半と推定される写真と比較すると、オーストラリアとカナダの瓶は後から追加されたことがわかる。
- この「世界中の軍人墓地」のディスプレーによって、メモリアルホールは亡くなった連合軍捕虜だけではなく、世界各国の亡くなった兵士たちを記念・慰霊する空間となってきたということだと思います。

隠蔽された犠牲者たち

- しかし、これらはすべての日本の「敵」の兵士たち、全世界の戦没者、全世界の「世界平和」を記念している場所ではありません。
- もともと、この記念碑とホールは第二次世界大戦(1941 年)連合軍捕虜のみのために建てられたもので、捕虜名簿の約９５％はイギルス人、アメリカ人、オランダ人、オーストラリア人です。隣の霊牌殿では「大東亜戦争」で亡くなった人たち、つまり、1937（あるいは 1931 年からの）日中戦争と太平洋戦争、いわゆるアジア・太平洋戦争の日本側の戦没者が慰霊されているが、メモリアルホールでは太平洋戦争のみの戦没者が記念されています。
- 数えきれないほどあった、中国人戦没者は 3 人死者と 201 人行方不明の捕虜と、台湾の軍人墓地の土のみで記念されています。朝鮮の戦没者を慰霊するものはありません。言い換えれば、捕虜名簿に集中することによって、中国や他のアジアの犠牲者がほぼ見えないようになっています。
- また、リストでわかるように、「世界中の軍人墓地」は西側諸国または中立国の土のみが展示しています。メモリアルホールは世界平和ではなく、冷戦時代の日米同盟へのオマージュ（敬意）と理解することができます。
- 韓国・朝鮮の土がないのは終戦まで朝鮮が日本帝国の一部で、日本軍の中に朝鮮出身の人がいたということは原因の一つです。だから霊牌殿には朝鮮出身の人の位牌もあります。そして、独立運動で亡くなった人たち、日本と戦った朝鮮人の慰霊碑はありません。
- ですが冷戦で残酷的な戦場となったこともう一つの原因だと思います。つまり、ここは日中戦争や日本と朝鮮の間の紛争、あるいは冷戦の出発点と言える朝鮮戦争を隠蔽しており、日米同盟を批判しないようにしている「世界平和」のための場所です。
- さて、石川は「たっての平和の願い」を込めて霊山観音を建てたというのは正しいでしょうか。違うと思います。石川はアメリカを中心にした西側諸国との和解や、日米同盟、または日本をアジア諸国の資本主義のリーダーとなる冷戦体制のために建てたという方が現実に近いと思います。

戦争のモニュメントではない

- 最後は現在の霊山観音に目を向けます。
- 設立当時から、霊山観音は遺族や観光客を中心に、日本人や外国人の訪問者が割と多かったようですが、1970 年代前半ごろから人が減り始めて、私たちが見る限り、この 10 年の間ではずっと少ないままです。
- 慰霊されている人の友人、妻や子供たちなどの本人に近い遺族が減っている原因が大きいですが、観光地としての最高のこの場所と 70 年代の日本人観光客の増加やこの 10 年の海外旅行者の激増を考えると、霊山観音が京都の名所じゃなくなったのは世代交代などだけが原因ではないことは明らかでしょう。
- この問題のヒントはメモリアルホール、または霊山観音の対外的な宣伝や情報にあると思います。
- メモリアルホールの展示は冷戦時代のままで時間が止まっています。いくつかの境内にあるサインやホームページの情報は中国語とハングルもありますが、展示はほぼ 1960 年代のままで、中国人や韓国人が以前と変わらずほとんど排除された状態です。メモリアルホールに中国韓国などの軍人墓地の士や戦没者リスト、または彼らを慰霊するような簡単な象徴的なものもありません。朝鮮は戦時中の「仲間」のままで、中国は冷戦の「敵」のままです。

- 霊山観音のホームページや大通りの看板を見ると、これらの国のみならず、日本の戦没者も出ていません。ホームページとこうした看板には、石川が霊山観音を設立した目的である日本の戦没者のことが全く紹介されていません。
- 唯一戦争のことが書いてあるのはホームページの一番下にメモリアルホールのことが書いてあって、捕虜のことが記載されず、「第二次世界大戦で、日本だけでなく国のために殉じた世界無名戦士の御霊を供養しております」としか書いていません。
- また、道路の看板には「京都一大きい観音像」や「願いの玉」など霊山観音が大きな仏像を持った特徴のあまりない普通のお寺として紹介されています。
- これは石川が亡くなって、霊山観音を時代に合わせた戦没者関係の観光地にするリーダーがいないということもあります。しかし、日本が戦争の英雄か、被害者か、加害者かなど、単純な戦争の見方が一致しない、分離し、「記憶紛争」が続いている日本では時代に合わせることが非常に困難だということも原因の一つだと思います。

- だから誰も文句言えないような漠然とした「世界平和のためだ」など、霊山観音を紹介することになりました。